

入 試 制 度

国立大学入学試験の受験者に対して共通第1次学力試験を課する制度が発足して以来、大学は諸種の改革を進めると共に、種々の調査研究を実施している。制度発足以来の諸改革を踏まえた現況を把握するためアンケート式や懇談式による意見調査がある。調査対象は調査内容と関わって異なるが、大学教官；大学院生；大学生；高等学校教員；高等学校生徒，父兄の諸層にわたっている。調査内容は共通第1次学力試験を課する制度の是非；2次試験方法としての学力試験(教科，科目)，小論文，実技試験，面接試験の是非；調査書利用，推薦入学，特別選抜(社会人，帰国子女)，2次募集の是非等の多岐にわたっている。また職業高校での職業高校観・目的や大学志望の職業高校生の意識についての調査も行われている。少数であるが大学の所在地を離れた試験場設置の効果についての調査研究がなされている。

2次試験では大学の学部・学科に相応する入学者を選抜する方法が望まれているが、医学系の一部で諸種の心理テストを行い医師としての適性豊かな選抜を目ざした調査研究がなされ、教員養成系の大学，学部のなかでは高校調査書の行動・性格記録を用いた教員としての適性，精神的・身体的(色覚，聴覚，身障)に教員としての適性の調査研究がなされている。入学試験の合格者については，入学辞退者の追跡調査，

また入学者の留年調査がなされている。入学者を対象として現代学生像を把握し，大学教育の課題を探った調査研究もなされている。

入学試験における教科・科目の変更や配点の変更は受験者の層を変えろという調査がなされている。今日共通1次学力試験における5教科7科目が検討事項となっている。これは高校生の進路選択，高校教員の進路指導並びに高校の授業に重大な関わりを持っている。入試教科の類型及び教科別試験科目の類型を昭和60年度の入試科目から定め，更に2次の試験科目と共通1次の科目の関係を調べて，入試教科・科目からみた学部・学科の特性を扱った調査研究がなされている。入学者を対象に，理工系大学を志望した理由，本学志望の理由及び目的について調べ，入学者の特徴を扱った調査研究もある。

以上は現行入試制度の下での実態に即した調査研究であるが，大学入試に関する理念と制度の国際比較的研究がなされている。国際比較の枠組として大学入試の理念ないし目的，入学者選考における評価対象，入学決定方法，入学者像，判定主体及び改革動向の六つの観点を設けて，16か国の入試制度を類型化し移行型，能力主義型，開放型及び社会主義型に分け，それぞれの特徴について調べ，我が国の大学入試制度の改革のための提言がなされている。